

公衆電話

「公衆電話」といっても、個々人が携帯電話を片時も手放さないような今の時代にあっては、その存在自体も忘れ去られつつあるようです。しかし、かつてはこの電話に並んで順番待ちをする人びとの姿も珍しくありませんでした。

街頭でかけられる公衆電話が日本で最初にお目見えしたのは、明治33年(1900)のこと。東京の新橋と上野の駅前に設置され、当初は「自動電話」と呼ばれていました。

と呼ばれていました。

公衆電話は一般に硬貨投入式でしたが、終戦後の一時期、極端な硬貨不足によって紙幣式(信用式)が用いられたこともあります。これは、紙幣用(硬貨でも可)に設けられた投入口に通話料を入れるというもので、料金は自己申告制。つまり、利用者を信用してこそこの方式でした。

ところで、公衆電話という何色を思い浮かべるでしょうか。昔は公衆電話を“赤電話”と呼ぶ人もいたそうで、いまでも店頭などでは赤色を見かけることはあるものの、電話ボックスにあるのは緑やグレーで、外国にも簡単にかけら

れる時代になっています。また、黒一色だった家庭電話も今は色も形もさまざままで、時代の変遷を感じます。



仏事の豆知識

法事の日数

法事の日数の数え方については、地域によって多少異なる場合があります。一般には、葬儀を済ませてから7週間が過ぎ、「四十九日」の忌明け法要の後、命日から数えて百日目に執り行われるのが百か日の法事です。その次が一周忌で、亡くなった翌年の祥月の命日に営まれます。そして、一周忌の翌年には、三回忌を執り行います。これは、没後満2年

ということは、亡くなってから3年目を迎えることだという解釈によるものです。

それからは順次、亡くなった年を第一回として6年目に七回忌、12年目に十三回忌、16年目に十七回忌、22年目に二十三回忌、26年目に二十七回忌、32年目に三十三回忌というように営みます。しかし、これらはあくまでも一般的なもので、地方によっては二十五回忌を営んで二十三回忌と二十七回

忌を兼ねるところや、五十回忌、百回忌と続けるところもあれば、三十三回忌で法事を終える地域もあり、一律ではありません。



生活の中の仏教語

頂戴

一般に「頂戴」は、さまざまな場面で用いられます。「けっこうなお品を頂戴いたしました」「もう十分頂戴しました」などと“もらうこと”や“食べる”をへりくだっていうときに使ったり、子どもが何かを催促して「○○を頂戴」などということもあります。

「頂戴」は本来、もらった物などをうやうやしく頭上にいただくことをいいます。たとえば、卒業式などで証書を頭の位置より上に捧げていただくこ



となどもこれに当たります。この「頂戴」は、仏の教えや経典を頭の頂にのせていただく仏教の作法に通じるものです。

仏教で仏を礼拝する作法に「頂礼(ちやうらい)」がありますが、これは五体投地礼ともいい、頭頂(前額)を地面につけ、手のひらを上向きにさせていただきます。「頂戴」はこの「頂礼」に類する言葉です。

こうしてみると、「はやく○○して頂戴よ!」などと乱暴に使うのは憚られる気がします。

まづばよ

- 暮らしの知恵袋…お料理—“残りもの”の再利用
- 仏事のころえ…お墓のメンテナンス
- 昭和さんぽ…公衆電話
- 仏事の豆知識…法事の日数え方
- 生活の中の仏教語…頂戴

— 明治22年創業の信用と実績 —

墓石・採石・生コン・建設業・不動産取引業



森近石材株式会社

〒720-0311
福山市沼隈町草深2564-2
TEL (084) 987-2133(代)
TEL (084) 987-2934(夜)
TEL (084) 987-2820(展示場)
FAX (084) 987-2714

歳時記

遍路

「お遍路が一行に行く虹の中」これは“寅さん”こと渥美清さんの句です。のどかな田園風景にとけこんで歩むお遍路さんたちの姿が目につくようです。



“同行二人”の遍路道

いうまでもなく「遍路」とは、弘法大師「お大師さま」(774~835年)が修行をした四国八十八カ所の霊場を巡拝すること、また、それをなす人のことをいいます。たとえ一人で遍路道を巡るのであっても、お遍路は“同行二人(どうぎょうににん)”といわれるのは、常に「お大師さま」との二人連れであることを意味しています。

八十八カ所の札所が確立したのは、江戸時代の中頃であろうといわれますが、四国遍路がいつ頃から始まったのかは定かではありません。しかし、平安時代末期に成立したとみられる説話集『今昔物語集』にも「今

は昔、仏の道を行ひける僧三人伴ひて、四国の辺地と云ふは伊予、讃岐、阿波、土佐の海辺の廻りなり」とあることから、当時、すでに四国を巡る修行僧がいたことが推測できます。

終わりのない道

遠く平安の昔に修行僧たちが歩んだ道は、やがて遍路道となり、「阿波の国」(徳島)→「土佐の国」(高知)→「伊予の国」(愛媛)→「讃岐の国」(香川)へと至る修行の道程は、各人が「気づき」→「反省し」→「納得して」→「実行する」という、悟りへの道筋を示すものとなっていっ

たのです。しかし、この悟りへの道は終わりなき道でもありました。現に、八十八カ所の札所を地図で見ると、第八十八番・香川県の大窪寺は、第一番・徳島県の霊山寺に最も近い位置にあることがわかります。

つまり、さまざまな理由で家や故郷を離れたかつての遍路は、円環(まるくつながった輪)をなす遍路道を、ひたすら悟りを求めて死に至るまで何度も巡り歩いたのです。

お遍路の今

全長1200~1400kmともいわれる遍路道は、歩けば50日前後を要します。全行程を車で巡ったり、バスツアーなど行楽気分を訪れたり、お遍路も時代と共に様変わりしている一方で、昔ながらの白装束(しろしょうぞく)に菅笠(すげがさ)をかぶり、金剛杖(こんこうづえ)を手にした「自分探し」の遍路をする若者たちや、外国人旅行者も増えているといえます。



お料理 “残りもの”の再利用

食品ロス問題を研究する井出留美さんの著書『賞味期限のウソ』には、食品ロスを減らす10カ条が示され、その中には「残りものは別の料理に変身」も含まれています。



「見方を変えること」が大切

冒頭の10カ条にはもちろん「残さず食べきる」も挙げられています。すべて食べきってしまったら残りものも出ないわけですが、ついたくさん作ってしまったり、食べるはずの家族が都合で外食したり...と、どのご家庭でも何かしら残りものが出てしまうのは、仕方のないことかもしれません。とはいえ、「(料理の)残りもの」というと、どうもマズイというイメージがあるからか、もったいないと思いつつも捨てる場合もあるようです。

そこで、まず“残りもの”というレッテルをはがし、「これは味のついた食材なんだ」と考えてみてください。するとどうでしょう。「そうだ!こうすればちょっと違った一品になるかも…」というように、さまざまなアイデアが浮かんでくるのではないのでしょうか。

次々浮かぶ「変身料理」のアイデア

◆煮もの(ひじき・切り干し大根・きんぴらごぼう)など

→ ①かき揚げに

煮ものの汁気をきり、かき揚げの具にします。煮ものに加えて玉ねぎや大葉、しょうがのみじん切りなど、お好みの野菜を加えると、よりおいしくなります。

* お好み焼きにも応用できます。

→ ②オムレツに

煮ものと卵の相性がいいので、煮汁も少し加えて卵たっぷりのオムレツにします。食べやすく切ればお弁当のおかずにもぴったりです。

→ ③コロッケに

煮ものは少し細かく切り、マッシュポテトに混ぜてコロッケに。

◆鶏の唐揚げ

→ マリネに

唐揚げは電子レンジで温めなおし、南蛮漬け風に甘酢に漬け込みます。セロリ(葉もすこし入れます)や玉ねぎ、にんじんの千切りなども加えて漬けると味も彩りもよくなり、唐揚げとはまた違った風味をたのしめます。

* ほかの料理で余ったアジやイワシも唐揚げにしてマリネに。魚嫌いの方にもおすすめです。

ご存知ですか?

温泉卵の作り方

①冷蔵庫から出した卵は常温に戻します。②①を炊飯器の内釜にいます。③②に80℃のお湯を注ぎ、炊飯器のふたをして約20分おきます。

* 卵は数個、お湯は約1リットルを目安に。(注: 卵がうまく固まらない場合は、お湯の温度や時間を微調整してください)



◆おでん

→ ピザ風に

おでんのはんぺんやちくわ、さつま揚げなどの汁気をきり、とろけるチーズをのせてオーブンでさっと焼きます。意外な組み合わせですが、和洋の味が絶妙のピザに大変身。

◆クリームシチュー

→ ドリアに

シチューをご飯に混ぜ、とろけるチーズをたっぷりのせてオーブンで焼きます。アンチョビなどを加えるとぐっと大人の味になります。

* ポテトサラダもチーズをのせて焼くと、温かい一皿に。

◆カレー

→ ①サモサ風に

冷えたカレーを餃子の皮に包み、油で揚げます。おつまみにもぴったりです。

→ ②スープに

朝食のトーストにぴったりの一品。ルーの残った鍋に熱湯を加え、顆粒状の洋風スープの素を加えて塩、コショウで味付けします。具がほしいというときには、刻んだ残り野菜や溶き卵を入れて少し火かけます。お鍋にこびりついたルーもきれいになって一石二鳥です。

仏事のころえ

お墓のメンテナンス

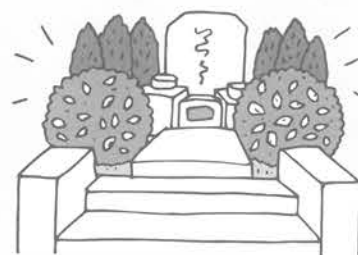
お墓は一度建てたら、そのまま大丈夫だと思いがちです。ですから、お墓参りは欠かしませんというご家庭でも、墓石そのものに細かく目を配ることは、あまりないのではないのでしょうか。



植木のあるお墓

墓所の見映えをよくするため、植木を植え込んだお墓もよく見かけます。しかし、植木の手入れは自分たちでしなければなりませんので、手入れが行き届かず“植えたまま”状態のお墓も少なくありません。

植木は、種類によって根の張り方も異なります。伸びすぎたり、太くなってカロート(納骨棺)に害を及ぼすこともありますので、植木を植える際は施工業者に相談することをおすすめします。また、自分で植木の手入れができない場合、代行業者に頼めるかどうか確認しましょう。



お墓も“生きもの”、メンテナンスを忘れないで

お墓は「石」で出来ているのだから、どんなことにもビクともしないと思込んでいませんか。

下の表をご覧になればおわかりのように、まさしくお墓も“生きもの”で、たとえば、故人が大好きだったからといって、墓参の度にビールやお酒をかけられれば、墓石も悲鳴を上げて変色することもあります。また、枯れた供花をそのままにしたり、サビの出そうな缶詰などをお供えしたまま長い間放置すれば、墓石にも悪影響を及ぼします。

このようなことを念頭に、墓参の度にちょっとした気遣いをされると、お墓もきっと喜ぶのではないのでしょうか。先

の大震災以来、お墓の耐震についても、さまざまに工夫された工法も考案されていますが、まず、身近にできるメンテナンスを忘れないでおきたいものです。



●過去にあったお墓の変色の原因

- 1 油・ローソク・ワックス等の、油類成分使用による石の変色。
- 2 鉄成分やその他の成分を含んだ地下水、山水、汚水使用によるもの。
- 3 お酒・ビール・ジュース等をお墓にかけたため、起こった石の変色。
- 4 缶や金属類を放置し、その鉄サビを石が吸収した変色。
- 5 墓地の敷地や墓石に、塩や除草剤をまいたことによる石の変色。
- 6 お供えの生花の花粉を吸収した石の変色。(特にゆりの花は要注意)
- 7 枯れた生花を放置し、植物の成分を吸収した石の変色。
- 8 墓地付近の、樹木の成分を吸収した石の変色。
- 9 鳥の糞等の、付着物により起こった石の変色。
- 10 製鉄工場等の、排煙を吸収した石の変色。
- 11 線路の、鉄分を吸収した石の変色。
- 12 黄砂や、汚れた雨水による石の変色。
- 13 不適切な洗剤や、掃除用品等による石の変色。
- 14 海に近い墓地での、潮風による石の変色。

出典:『お墓の取扱説明書』(一般社団法人日本石材産業協会)

